

おかやまっ子の確かな学びをつくる

岡山型 学習指導のスタンダード

～3つの視点と7つのポイント～



岡山県教育委員会

各学校等の実態に合わせて、プレゼンテーションを加筆修正して、使ってください。

岡山型学習指導スタンダードについて

「確かな学力」を習得させる場は日々の**授業**である

- ①「基礎的・基本的な学習内容の定着」
 - ②「自分で考え、表現する活動の充実」
- 児童生徒が、「分かる・できる喜び」「考える楽しさ」が実感できる授業



- ・授業を行うための基礎・基本を「授業5(ファイブ)」
 - ・定期的に学習の定着を確認
 - ・学習基盤を確立するための規律
- 学習指導全体を通じ押さえるべきポイント**

児童生徒に確かな学力身に付けさせる授業・指導を行うためのポイントをまとめたものが、「岡山型学習指導のスタンダード」。

3つの視点と7つのポイント

〈視点1〉

児童生徒の学力・学習状況の把握と
課題の明確化を！

〈視点2〉

課題改善を図る徹底指導の連続を！

〈視点3〉

学習基盤の確立を！



児童生徒に確かな学力を身に付けさせる指導を行うための 3つの視点と7つのポイント。

**〈視点1〉
児童生徒の学力・学習状況の把握と課題の明確化を！**

Point 1

全国・岡山県の学力・学習状況調査や学習到達度確認テスト等、多様な資料やデータに基づき、児童生徒の学力の実態を分析・把握し、全教職員で課題の共有を！

**分析から
見えるものって何？**

「担任も違えば、児童生徒も違う。結果は違って当然。」と置いていたけれど、**データを分析したら、数年同じ傾向が続いていたことがわかったんだって。**

**分析をどう取組に
つなげればいいのか？**

「正答率が低い設問が、本校の課題である。」それは間違っ
てはいませんが、**異なるとらえ方**を
してみましたか？

視点1 「児童生徒の学力・学習状況の把握と課題の明確化を！」

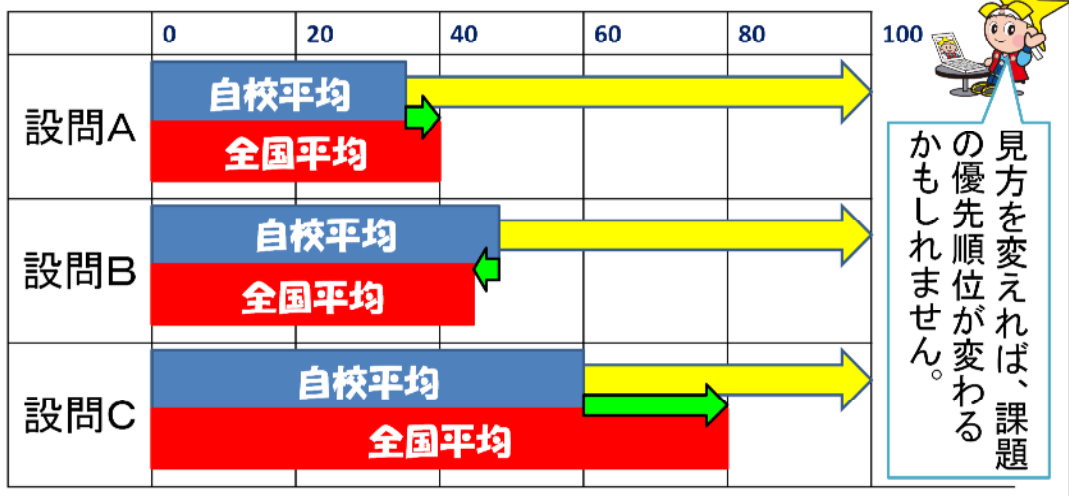
ポイント1 全国・岡山県の学力・学習状況調査や学習到達度確認テスト等、多様な資料やデータに基づき、児童生徒の学力の実態を分析・把握し、全教職員で課題の共有を！

○設問ごとに分析するなど、詳しく行ってみると、その学校、学年の課題や特徴などが見えてくる。

調査対象学年の職員だけでなく、全教職員で課題を共有することが大切。

○「課題のとらえ方」については、次のスライドで説明。

**〈視点1〉
児童生徒の学力・学習状況の把握と課題の明確化を！**



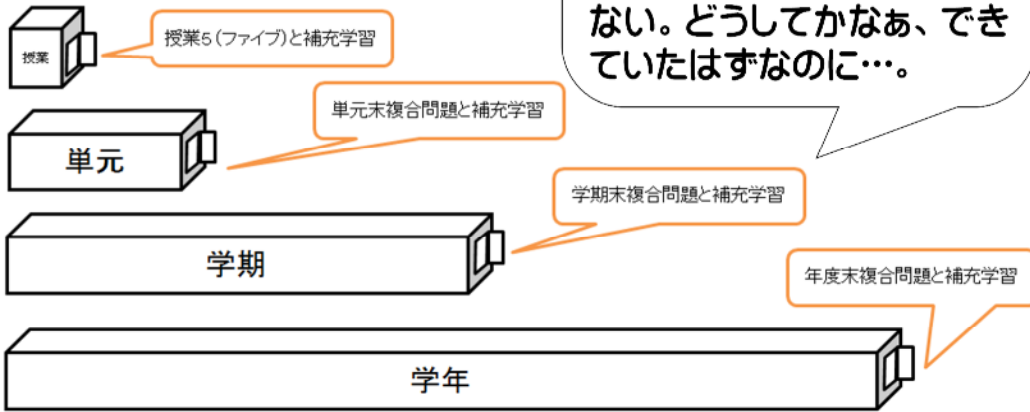
黄色：100Ptが基準 課題の大きい順はA→B→C
緑色：全国平均が基準 課題の大きい順C→A→B

- 平均正答率等の結果が返ってくると、正答率が低いものが気になる。
- この場合、黄色の矢印が課題となり、課題の大きい順は課題A、B、Cの順になる。
(問題の難易度が大きく影響。)
- ↓
- その結果、正答率の低い問題に課題があるとし、その単元を中心に課題改善を図ることになる。
- 見方を変えて全国平均との比較を行うと、緑色の矢印が課題となり、課題の大きい順は、課題C、A、Bの順になる。
全国の小中学生と比べて、本校(本学級)が課題としていることが明らかになり、対策を立てる順番が変わる。

〈視点2〉 課題改善を図る徹底指導の連続を！

Point 2

一単位時間、各単元、各学期、各学年で、【練習問題、単元末・学期末・年度末複合問題】の実施を！



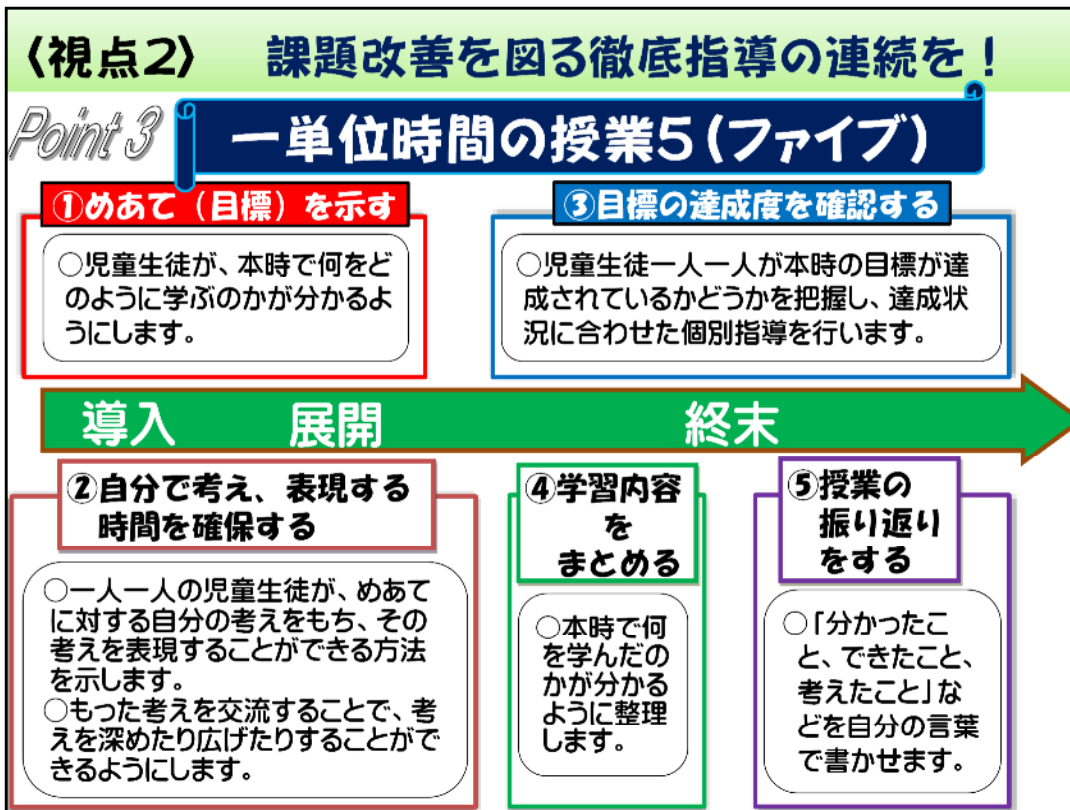
単元末ではできていたのに・・・

定期考査(単元末テスト)では、十分できていたのに、実力テストだと、結果が出ない。どうしてかなあ、できていたはずなのに・・・

〈視点2〉 課題改善を図る徹底指導の連続を！

ポイント2 一単位時間、各単元、各学期、各学年で、【練習問題、単元末・学期末・年度末複合問題】の実施が必要。

○多くの児童生徒は、授業や単元の終了直後には、学習内容をよく覚えているが、時間とともに、できなくなるので、単元、学期、学年と、定期的に振り返り、定着を図ることが大切になる。



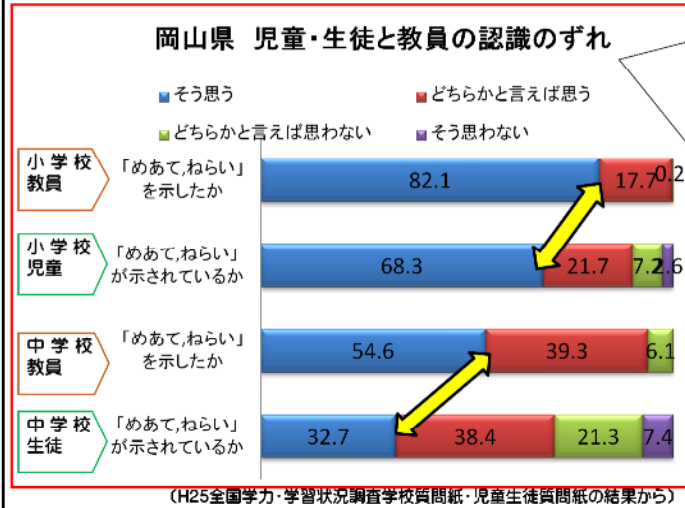
ポイント3 一単位時間の授業5 (ファイブ)

- 一単位時間の授業を5つのポイントに分け、示した。
- ①から⑤をしているが、順序を示しているものではない。
授業の展開によっては、順序が変わることもある。
以下、それぞれについて説明

〈視点2〉 課題改善を図る徹底指導の連続を！

一単位時間の授業5(ファイブ)

①めあて(目標)を示す



めあて(目標)を明確につて？

「黒板に書いてあるのは、**目標ではなく、タイトル**のみです。これでは振り返ることができません。**タイトルと目標は異なります。**」と、言われたけれど、「**目標**」と「**タイトル**」はどう違うの？

① めあて(目標)を示す

このグラフは、H25全国学力・学習状況調査学校質問紙・児童生徒質問紙の「めあてを示したか」に関する結果。

○教員側は、「めあて(目標)を示している」という意識でも、児童生徒側はそこまで受け止めていない現状が伺える。

○その原因の一つに、教員が示したものが「授業のタイトルは示しているが、めあて(目標)としての表現にはなっていない」という、指摘があった。

○それについて、つぎのスライドで説明。

〈視点2〉 課題改善を図る徹底指導の連続を！

一単位時間の授業5(ファイブ)



①めあて(目標)を示す (例)

(例1)

〇〇文化について

これは授業のタイトルであり、学習内容を振り返ることはできません。(不要というわけではありません。)

(例2)

〇〇文化の特徴を
まとめよう

まとめたかどうかを振り返ることはできませんが、目標達成度を認識することはできません。

(例3)

〇〇文化の特徴を
3つ以上挙げよう

児童生徒が、自分の学習を具体的に振り返ることはできます。
4つ→◎
3つ→○
2つ→△

中学校社会科 歴史の授業を例に説明

○(例1)「〇〇文化について」と、板書。

児童生徒は、これをノートに書くので、ノートを見直したとき、この時間に何をしたのか分かるタイトルになる。

これも大切だが、この時間のめあて(目標)にはなっていない。

○(例2)「〇〇文化の特徴をまとめよう」とあつたとする。

(例1)よりは、少し具体的な活動が表現されているが、どの程度まとめればよいのか、達成目標はあいまい。

○(例3)児童生徒に、自主的な活動を行わせる前に、「特徴を3つは挙げましょう。」と示す。

達成目標が明らかになり、活動後、児童生徒は自分の活動を振り返ることができる。

○必ずしも、数値を目標に入れるというわけではなく、「めあて(目標)を達成することができたと判断できる姿」を表現しておくことが大切。

〈視点2〉 課題改善を図る徹底指導の連続を！

一単位時間の授業5(ファイブ)

②自分で考え、表現する時間を確保する

・交流する前に自分の考えを持っているか確認

・児童生徒が、自分の考えをもつために教員は思考・表現の手掛かりとなるものを示したり、準備したりします。

「まず、話し合ってみましょう」と、いきなり話し合い活動にしているませんか？

・話し合い活動は目的ではなく手段であり、身に付けさせたい力を意図して行わせます

②自分で考え、表現する時間を確保する

○授業の中で、話し合い活動を行わせるが、それ自体が授業の目標になり、意見交換はしているが、話し合う目的がはっきりしないまま、活動が進んでいることがある。

○話し合い活動は、児童生徒に自分の考えをしっかりと持たせてから行うことが必要。

〈視点2〉 課題改善を図る徹底指導の連続を！

一単位時間の授業5 (ファイブ)



③目標の達成度を確認する

・めあて(目標)が達成されているか確認

・授業の中で、**練習問題**
又は発問によって、児童
生徒一人一人の達成度を
確認します。

「わかりましたか？」と
「何か質問ありますか？」
だけで、確認を
済ませていませんか？



・習得状況に応じた個別指導から定着を 図ります

③目標の達成度を確認する

○授業の中で、学んだ知識を試すことで、児童生徒は達成できたことを実感できる。

○そのための練習問題や確認のための発問をするなどして、児童生徒に達成度を確認させる。

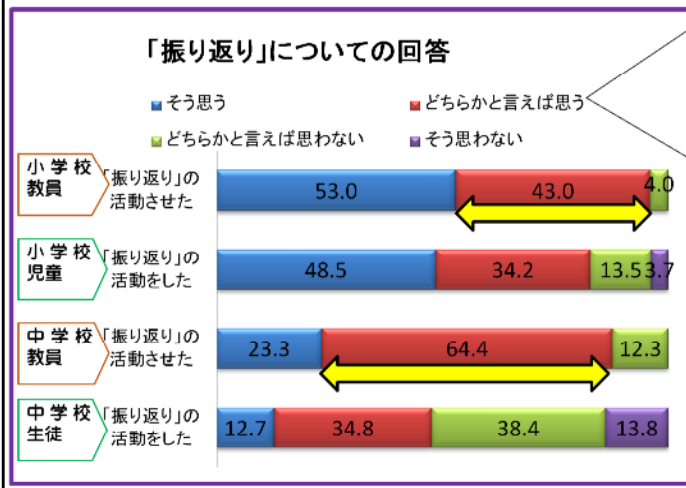
○その様子から、児童生徒が習得できたのかどうかを確認する。

○そして、習得できていない児童生徒には、個別指導等の手立てを講じる必要がある。

〈視点2〉 課題改善を図る徹底指導の連続を！

一単位時間の授業5(ファイブ)

⑤授業の振り返りをする



「まとめ」と「振り返り」ってどう違うの？

「児童生徒に自主的な活動をうまく展開されていたのに、授業の「まとめ」と「振り返り」とを同時に行っているので、終末がぼやけてしまっているのが残念です。」と、言われたけれど、「まとめ」と「振り返り」って、どう違うの？

⑤授業の振り返りをする

このグラフは、H25全国学力・学習状況調査学校質問紙・児童生徒質問紙の「振り返りを行ったか」に関する結果。

○「めあて(目標)をしめしたか」同様、教員側は、「振り返りを行った」という意識でも、児童生徒側はそこまで受け止めていない現状が伺える。

この意識のズレを解消していくことが授業改善につながる。

それと、特徴的なこととして、教員側の振り返りについて「どちらかと言えば思う」と回答した割合の多い。(黄色の矢印部分)

○それについて、つぎのスライドで説明。

〈視点2〉 課題改善を図る徹底指導の連続を！

一単位時間の授業5 (ファイブ)



④学習内容をまとめる

⑤授業の振り返りをする

まとめ ← 授業5の④と⑤が混在した「まとめ」

例1 ・AとBには、正比例の関係
があることが分かった。

学習内容のまとめ
の発表(④)

例2 ・班のみんなと協力して、
分かってよかった。

授業の振り返っての
自分の気持ち(⑤)

例3 ・関係ないと思っていた数
値に意味があって驚いた。

あいまいな状態、質
問を追加して、明確
にしたい。(④⑤)

④学習内容をまとめる ⑤授業の振り返りをする
「まとめ」と「振り返り」という言葉は、授業の中でもよく使われる言葉。
それ故に、区別が曖昧ということになることもある。
区別するために、ここでは次のように定義。

- 「まとめ」=教員が行うこと。その授業で何を学んだのかがわかるように、
(児童生徒の意見をまとめ、)整理して、児童生徒に伝えること。
- 「振り返り」=児童生徒が行うこと。その授業の中で「分かったこと、できた
こと、考えたこと」などを、児童生徒が自分の言葉で表現すること。

- 理科の授業を例に説明
(例1) 学習内容のまとめにつながる発表
(例2) 授業を振り返っての気持ち
(例3) 両者を混在した発表

○児童生徒の「分かった」「楽しかった」などの感想は、教員にとってうれしいものであるが、情意的な面が強調されて終わると、「授業は楽しかったけど、何を勉強したのか分からない。」ということになる。

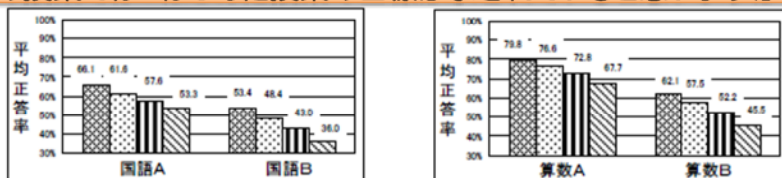
○「④学習内容をまとめる」「⑤授業の振り返りをする」を意識して分けることが大切。

〈視点2〉 課題改善を図る徹底指導の連続を！

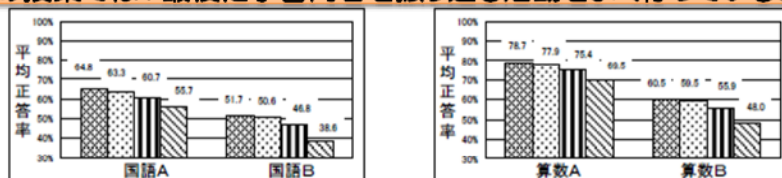
一単位時間の授業5(ファイブ)

H25年度全国学力・学習状況調査の平均正答率と相関があるとされています。(小学校)

普段の授業では、はじめに授業の目標が示されていると思いますか



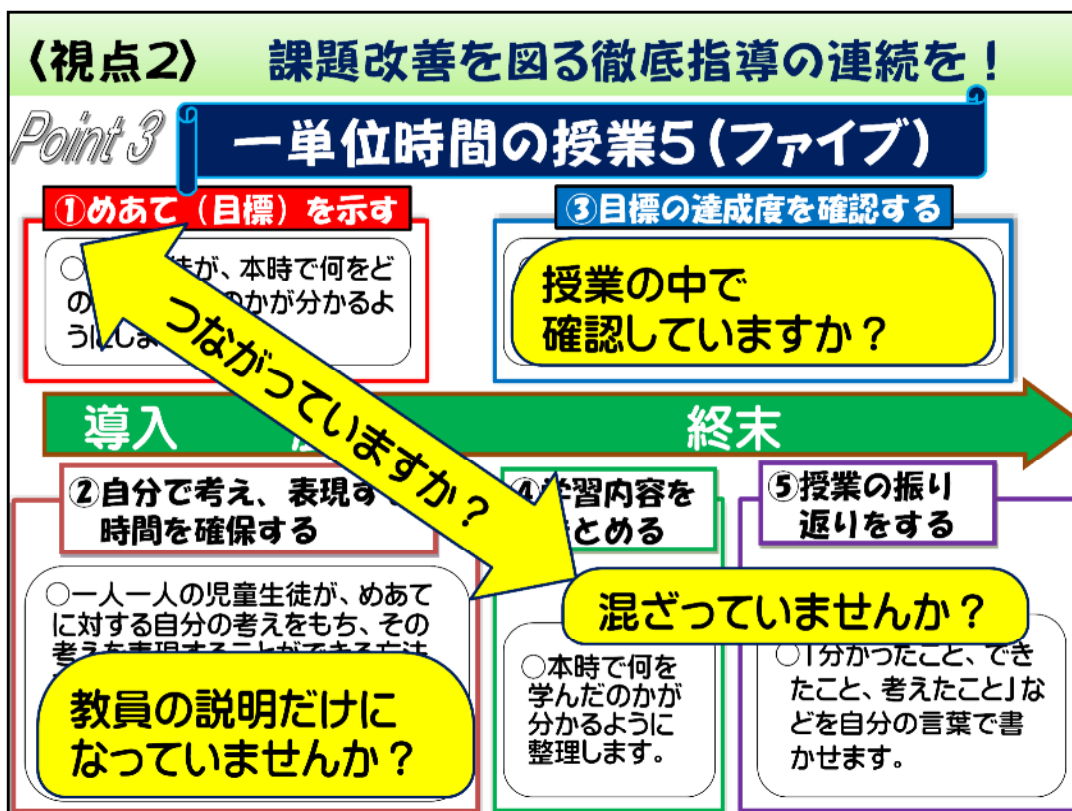
普段の授業では、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか



H25 全国学力・学習状況調査 報告書 クロス集計より

授業5(ファイブ)の重要なポイント2つ「めあて(目標)の提示」と「学習内容の振り返り」は、平均正答率との相関関係があると、全国の調査からも報告されている。

「めあて(目標)と振り返り」に対する回答について、教員と児童生徒との意識のずれを解消することが、授業改善のきっかけになり得る。



○一単位時間の授業5(ファイブ)の、確認ポイントのまとめ。

1. めあて(目標)とまとめがつながっているか。
2. 児童生徒が、自分で考え表現する時間を確保しているか。
3. 授業の中で、目標の達成度を確認する場面を設定しているか。
4. 「学習内容のまとめ」と「授業の振り返り」が、混ざっていないか。

○ただし、教科の特性や、授業の展開によっては、この授業5(ファイブ)の流れにのらない展開もある。

○授業5(ファイブ)は、あくまでも原則なので、それを踏まえて、児童生徒のために、教員自ら、授業を改善する材料にしていきたい。

〈視点2〉 課題改善を図る徹底指導の連続を！

指導の基礎・基本

Point 4

授業の中で、机間指導の工夫等【指導の基礎・基本】に基づいた指導を！

意図的な机間指導

- ・「個」を見ながら、「全体」を見取る
- ・「発表されていない表現」を探し、次に生かす
- ・つまずいている児童生徒への支援、理解の早い児童生徒への支援の両方が必要である
- ・児童生徒のやる気を育てる大切な時間である

→ **声の大きさ**と**回る順番**で「個」と「全体」に対応

ポイント4 授業の中で、机間指導の工夫等【指導の基礎・基本】に基づいた指導を！
指導の基礎・基本

○1点目は「意図的な机間指導」。

(例)「よく、できているね。」という言葉も、特定の児童生徒に、目的に応じて、小さな声でかける場合と、周りにも聞こえる声でかける場合が考えられる。

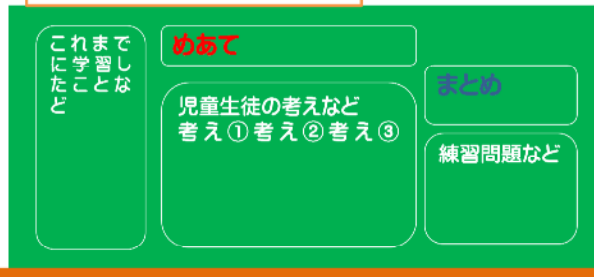
〈視点2〉 課題改善を図る徹底指導の連続を！

指導の基礎・基本

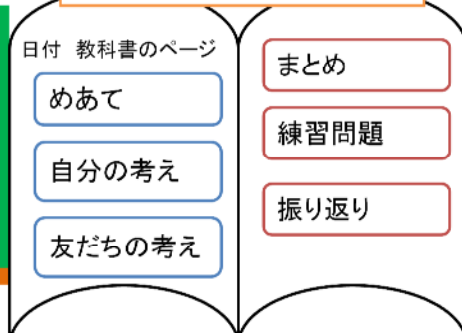
Point 4

授業の中で、机間指導の工夫等【指導の基礎・基本】に基づいた指導を！

2 板書の構造化



3 ノート指導の徹底



板書を構造化すると、ノート指導につながります

○2点目は板書の構造化、3点目はノート指導の徹底。両者は、連動するものである。

○板書を構造化することで、めあて(目標)、児童生徒の考え、まとめ等の学習の道筋が整理される。

○ノートは、何を学んだのか、どのように学んだのかを振り返ることのできるように書かせることで、学習内容の定着や学習意欲の向上につながる。

○ICTを使用する場合も同様。画面が変わってしまい、何も残らないということがないように工夫することが大切。

〈視点3〉 学習基盤の確立を！

Point 5

授業を支える学習基盤

学習基盤を確立するための規律【**学びのかなめ**（学習用具・時間・姿勢・話し方・挨拶・整頓・掃除）】の指導の徹底を！

教員によって指導が異なるのではなく、校内で統一した規律を全ての教員が、徹底することが大切です。



〈視点3〉 学習基盤の確立を！

ポイント5 学習基盤を確立するための規律【**学びのかなめ**（学習用具・時間・姿勢・話し方・挨拶・整頓・掃除）】の指導の徹底を！

○「学びのかなめ」として、県内の小中学校で取り組んでいただきたいことをまとめた。

・好事例として報告されている共通点

→「校内で統一した規律を全ての教員が、徹底すること」。

○「まずは、靴箱のかかとをそろえる、それだけを徹底した」という実践例もあった。

→生活全般をすべて同時に、というわけではなく、できるところから徹底し、教員も児童生徒も「できた」を実感することが大切。

〈視点3〉 学習基盤の確立を！

授業を支える学習基盤

Point 6

児童生徒の【出番】と【居場所】を意識した、
学び合う学習集団づくりを！

出番

児童生徒一人一人が活躍(発言)できる場面をつくります。

居場所

過程をほめたり、認めたりする声をかけるなど、関わる
ことが大切です。



児童生徒が、授業の中で主体的に学びを進め、
互いに関わり合う場面を多く設定することで、
認め合い、支え合う学習集団にしていきます。

ポイント6 児童生徒の【出番】と【居場所】を意識した、学び合う学習集団づくりを！

○出番とは

・グループ学習等の中で、お互いが意見を交換するなど、児童生徒一人一人
が活躍(発言)できる場面を作ること。

○居場所とは

・「～ができるようになったね」など、一人一人の成長した事実を発見し、具
体的な言葉を児童生徒に伝えること。

○学級集団を、単なる仲良し集団ではなく、「学習集団」にしていくことが重
要。

〈視点3〉 学習基盤の確立を！

授業を支える学習基盤

Point 7

授業外での学習(家庭学習と補充学習)の充実からの学習習慣化を！

授業では学習内容が定着していなかった児童生徒には、補足的な学習や家庭学習等を工夫し定着を図ります。



家庭学習

- ・授業とつながる課題の出し方を
- ・家庭と協力して家庭学習を充実させるための連携を
- ・中学校区での小中連携を

補充学習

- ・授業直後の確認だけでなく、節目には定着の確認を
- ・地域の人材等、外部の協力を得ることも

ポイント7 授業外での学習(家庭学習と補充学習)の充実からの学習習慣化を！

○家庭学習の充実のために

①授業とつながる課題の出し方を

- ・次の授業に生かす。
- ・確認小テストを行い、成果を実感できるようにする。

②家庭と協力して家庭学習を充実させるための連携を

- ・家庭学習の手引きを作成し、共通理解を図る。
- ・通信等で模範ノート、自主学習ノートを紹介する。

(P.10写真)「学び方」便り 自主学習ノートのよいところをコメントを交え紹介している。

③中学校区での小中連携を

- ・家庭学習強化週間等を設け、小中が連携して家庭・地域に働きかける。等

○補充学習の充実

①授業直後の確認だけでなく、節目には定着の確認を

・朝学習や補充学習等で、学習した直後の復習問題だけではなく、数ヶ月、数年前の問題を行わせるなどして、定着を図る。

②地域の人材等、外部の協力を得ることも

・学校の教員だけでは、補足的な学習に人材が足りない場合は、外部人材の力を得ることも必要。等

チェックシート

私の実践記録

「授業5(ファイブ)」と「学びのかなめ」のチェックシートを活用し、日々の指導改善に役立ててください。

日頃のご自身の授業について、今一度、振り返ってみましょう。また、校内の授業研究などの際にもご利用ください。

板書の写真などを貼るなど、授業等の実践記録などにご利用ください。

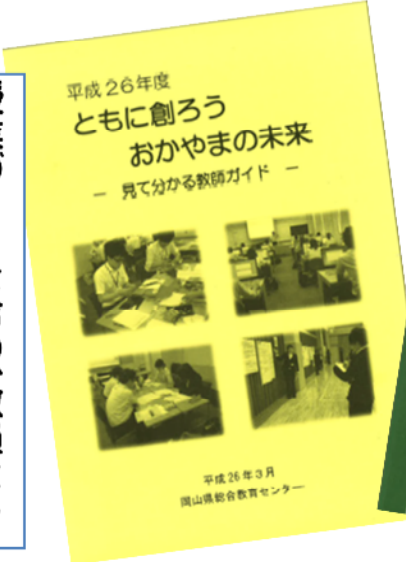


お知らせ


授業づくりの資料は、他にもあります。目的に応じて効果的に活用してください。



授業づくりを含め、教員としての職務全般の遂行のために



指導要領を基に、単元レベルで授業を構想するために



お知らせ

授業づくりに関する資料は、県総合教育センターからも出ている。

左側:ともに創ろうおかやまの未来

授業づくりを含め、教員として職務全般の遂行のために

右側:授業づくりの基礎・基本(実践編)

指導要領を基に、単元レベルで授業を構想するために

この「学習指導のスタンダード」は、一単位時間の授業のポイントを中心に構成している。

目的に応じて、それぞれ活用していただきたい。